

クラス紹介

医学科生としてのスタートの1年

2年 諏訪 允野
埜 駿生
藤岡 海登

新潟大学医学部医学科に入学して、早くも1年が経過しました。1年生は主に緑に囲まれた広大な五十嵐キャンパスで、人文社会科学や自然科学などの教養科目を受講します。外国語や情報リテラシー、新潟大学個性化科目など自分の興味がある分野の講義を受講することで、多様な価値観に触れ視野を広げることにつながります。また、医学科内だけではなく他学部の学生と共に受講することで、交友関係を広げることができます。

1年生の医学科の必須科目としては、前期に医学に関する話題についての「医学序説」や生化学の基礎である「はじめての医学」を受講しました。この講義で2年生以降の学習内容についてのイメージを持つことができました。8月には「早期医学体験実習」で、県内各地の病院やクリニックを訪れました。医療現場で医師の仕事を間近で見学し、医師という職業への理解を深め、これから医学を学んでいく意欲を向上させました。後期は「医学入門」でコミュニケーションや医療倫理について仲間と議論しながら理解を深めました。この講義の一環として、新潟県内の市区町村に訪問するフィールドワークを行いました。新潟はとても広く、地域によって歴史や産業、文化の違いがあり医療状況も少しずつ異なることを肌で感じました。

部活動については学年のほとんど全員が参加しており、東医大などの各々の目標に向かって日々活動に励んでいます。毎日同期や先輩から良い刺激を受け、学業や部活動、バイトに取り組んでいます。1年生は比較的自由な時間が取れるため、自分の興味があることに取り組むことができます。

2年生からはいよいよ本格的に医学を学んでいく学年になります。1年生で学んだ教養や医学の講義内容、部活動などの経験を活かして、医学生としてさらに成長していこうと意気込んでいます。

学びと成長の日々

3年 小林 倭大
西澤 拓馬
石岡さくら

新潟大学医学科2年生のクラスは、医療への深い志と探究心を持ち、将来患者さんに寄り添える医療人を目指す仲間たちの集まりです。多彩な経歴や価値観を持つメンバーが集い、互いに刺激し合いながら成長しています。

現在、生化学や生理学といった医学の土台となる科目に取り組み、解剖実習を通じて医療従事者としての責任感を新たにしています。基礎医学をしっかり身につけ、将来の臨床現場で役立つことを念頭に日々学んでいます。また、医療格差や公衆衛生といった社会課題にも目を向け、より良い医療システムの実現を考える学生もいます。

私たちは協働の精神を重んじ、実習やグループワークを通じて、チーム医療に必要な連携力を養っています。患者さんに最良の医療を届けるため、専門知識とともに対話力の向上にも力を入れています。

さらに、健康啓発活動にも積極的に参加し、地域への貢献を心がけています。健康教育や検診イベントなど、地域の人々の健康づくりを支援する取り組みに関わり、医学を社会に還元する活動を続けています。

新潟大学医学科2年生は、医療のプロフェッショナルとしての基盤を築きながら、社会への責任を胸に歩んでいます。私たちは学びと情熱を結び合わせ、これからの医療を担う存在になるべく、日々前進しています。

最大規模の学年として、新たな医学の未来へ

4年 外山 重斗
桐生幸之助
川崎 寧々

私たちは令和5年度春に新潟大学医学部医学科へ入学した3年生です。私たちの学年を一言で表すなら、「全国最多の医学部定員で入学した最大規模の学年」です。多くの仲間と共に学ぶ環境の中で、さまざまな価値観や考え方に触れながら、互いに刺激を受けつつ学生生活を送っています。人数の多さを強みに、幅広い交友関係が築かれ、学業のみならず課外活動や日常生活においても活発な交流が生まれています。

これまでの2年間で、生化学・生理学・解剖学といった基礎医学に加え、病理学や薬理学など、より臨床を意識した科目の学習が本格化してきました。3年生となった現在では、個々の知識を単独で理解するだけでなく、それらを統合し、疾患や治療へと結びつけて考える力の重要性を実感しています。講義や演習を通して、医学が単なる学問ではなく、患者の生活や人生に深く関わる実践的な学問であることを改めて認識するようになりました。

また、臨床実習を目前に控え、医療従事者としての自覚や責任感が一層高まっています。患者との向き合い方や医療者としての倫理観、チーム医療における役割について考える機会も増え、将来の医師像を具体的に思い描く学生が多くなってきました。さらに、地域医療や医療アクセス、公衆衛生といった社会的課題への関心を深め、医療を通じて社会に貢献したいという意欲を持つ学生も増えていきます。

これから始まる臨床実習に向けて、私たちはこれまでに築いてきた仲間との絆を大切にしながら、互いに切磋琢磨して準備を進めていきます。医学部での6年間の学びの折り返し地点に立ち、初心を忘れず、知識・技術・人間性のすべてを磨き続けることで、患者一人ひとりに寄り添える医師となることを目指して、今後も努力を重ねていきたいと考えています。

未来の医療を担う新潟大学医学科5年生クラス

5年 田中 佑弥
平井 脩翔
阿部はる菜

入学から4年が経ち、ついに私たちも高学年の仲間入りとなりました。

多くの部活で、私たちの代が幹部として下級生を率いた一年だったと思います。夏休みが明け、再会した同期の顔を見ると、幹部という重圧から解放されてすっきりしたような、ついに終わってしまったのかと、どこか寂しそうな顔をしていたのも印象的でした。部活の集大成でありながら、部活の運営を担った経験は必ず私たちの糧になってくれていると思います。

そして夏が明けると学年の雰囲気はCBTに向けて、一気に受験モードに変わっていました。皆で励まし合い、支え合いながら駆け抜けた2ヶ月だったと感じます。全員で一緒に冬から始まるポリクリへ進んでいくために、各々が全力で乗り切った期間でした。

この文を執筆している現在は、OSCEへ向けて練習を行っており、もうすぐ臨床現場に足を踏み入れていくのだ、と強く実感しております。CBT、OSCEともに全員で乗り切ろうという思いで、協力しながら実習に取り組んでいる姿や、先生方に積極的に質問している姿も見られます。

ポリクリでは、実際に患者さんと関わり、先生方のご指導ご鞭撻を通して、立派な医療人になるために成長していきたいと意気込んでおります。仲間と協力する姿勢を忘れずに、実習を有意義なものにできるよう、一層努力していきたいと思っております。

学生生活の集大成

6年 岡田 隼汰
住安 蒼
増田 美果

私たちは2021年に入学し、いよいよ最高学年である6年生となりました。入学当初は新型コロナウイルスの影響により、多くの活動が制限され、思い描いていた大学生活とは異なる形でのスタートでした。しかし、そうした状況の中でも、仲間とのつながりを深めながら日常を取り戻し、私たちなりの充実した学生生活を築いてきました。

振り返ればこの5年間は本当にあっという間でした。2年生では解剖実習や基礎医学の勉強を通して医学の基礎を固め、3年生から始まった臓器別講義では数多くの試験を乗り越えながら、医学の奥深さと難しさを実感しました。CBTやOSCEを経て少しずつ臨床に向けての準備が整い、そして迎えた白衣式。真新しい白衣に袖を通した時の、あの初々しい緊張と決意の気持ちは今でも鮮明に覚えています。

4年生の冬からは本格的に臨床実習が始まりました。患者さんと直接関わるなかで、座学では得られなかった多くの学びを経験してきました。実際の医療現場に身を置くことで、医療チームの一員としての自覚と責任を感じながら、多くの先生方のご指導のもと、日々成長してきました。

そして6年生となった今、私たちは国家試験という大きな目標に向けて、これまでの学びを総まとめする時期を迎えています。不安もありますが、これまで共に頑張ってきた同期の存在が心の支えです。互いに励ましあいながら、学生生活の集大成として最後まで努力を重ねていきたいと思います。

これまで出会った同期、支えてくださった先生方や家族への感謝を胸に、一人ひとりが立派な医師として新たな一歩を踏み出せるよう、これからも精進してまいります。

静かな絆、確かな歩み

令和7年度卒業生 直井 香澄
岩瀬 夏海
丸井 理矩

皆さん、こんにちは。医学科6年生です。

楽しかったクリニカル・クラークシップを終えたあとには、Post CC OSCE、卒業試験、国家試験と、試験がまるで季節の移ろいのように巡ってきます。

今まさにこの文章を書いている最中にも、学務係の方から卒業試験二日目の結果が届きました。……結果の詳細については触れません。察していただければ幸いです。多くの戦友の名が紙に刻まれていたのは言うまでもありません。

さて、私たちは、コロナ禍の最中に入学した世代でした。教室はパソコンの画面、握手の代わりにミュートボタン、サボりたければ電波障害——そんな風に始まった学生生活。画面越しの顔、声と名前という断片的な情報で始まった生活が終わりお互いの顔を実際に見たのは、すでに1年半が経とうとする頃だったでしょうか。そのせいか、学年全体の結束はやや希薄に感じられたかもしれません。しかしだからこそ、実習でようやく顔を合わせたとき、何気ない会話や笑いがひととき嬉しく感じられたのだと思います。

学年全体のつながりは、派手ではなかったかもしれませんが、けれども、そのぶん一人ひとりの関係は静かに、そして確かに深まっていったように思います。言うなれば、派手な花火大会ではなく、夏の終わりの線香花火のような——そんな温かい絆でした。

そして、いよいよ卒業が近づいています。これまで私たちを導いてくださった先生方、臨床現場で支えてくださった病院の皆さま、そして多くのサポートをしてくださった学務係の方々に、心より感謝申し上げます。ありがとうございます。